

生駒市郷土資料館新設準備検討懇話会第4回会議録（要点筆記）

1 開催日時 平成22年11月22日（月）午後3時～午後5時5分

2 開催場所 中央公民館別館集会室

3 出席者 （委員） 山本副会長 吉川委員 小林委員 樋口委員 吉田委員
西川委員 臼井委員 神委員
（事務局） 長田生涯学習部長 西野生涯学習課長 今野生涯学習課長補佐
錦文化振興係長 小田生涯学習課職員
欠席者 浦西会長 山田委員

4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人 なし

5 議題

会長あいさつ（山本副会長代行）

- (1) 第3回会議録の承認について
- (2) 設計試案からの諸項目の検討
- (3) その他

6 審議内容

浦西会長が欠席のため山本副会長が議事代行

- ・ 第3回会議録の承認について
訂正箇所1箇所あり
訂正のうえ全員承認
- ・ 設計試案からの諸項目の検討

事務局 設計試案について説明

- ・ 建物構造を現実的に見て設計技師が作成。
- ・ 議会棟に収蔵品展示室を設け、畳部屋はそのまま展示室に利用する。
- ・ 収蔵庫は土蔵を綺麗にして再利用する。
- ・ 町政執務棟は、研修室・図書閲覧室・図書資料室・作業室の設置を考えている。集会室舞台付近は、男性・女性・障害者用トイレ、倉庫に使用する。
- ・ 外観を残すことが登録有形文化財のポイントであるから、外観のガラス窓を残すために屋根の構造を用いて軸組を現状維持する。

- ・前回市民ホールを展示室にすると、外光により文書などが日に焼けるという議論があったが、可動式で内側に配列するような雨戸・ブラインド・展示ケースの向きを考えながら対応する方向で展示室に利用し、広い空間で展示することにプランを組んでいる。
- ・集会室は研修室・フリースペースも合わせての 60 m²ほどの部屋で収容人数 50～60 人と考えている。
- ・作業室は埋蔵文化財の出土品の処理も行う場所とし一部土間に戻し、トイレもそのまま利用する。

山本副会長 設計試案の説明について意見ををお願いします。

- 白井委員
- ・図書資料室の図書はどのくらいあるのか。
 - ・生駒市所蔵資料のリストを見ると数が多いが保存場所はどうするのか。

- 事務局
- ・図書冊数は、各市町村から埋蔵文化財・古文書等の調査報告書類と歴史に関わる書籍、辞典類、古文書調査の成果を反映していくためのデジタルデータ等で、数が膨大なためピックアップして置く予定です。
 - ・民俗文化財については、展示室に展示するものを、保存状態を見ながら移動可能なもので絞り込み、館内の収蔵庫に置きます。保存状態の悪いものは移動は無理であるため他の施設に保管します。

西川委員 設計試案に倉庫は大きいのが 3 つある。ほかに収蔵庫はあるのか。

事務局 収蔵室を確保するような設計になっています。

神委員 登録博物館や準ずる博物館、相当施設があるが、どのレベルで考えているのか。

事務局 登録博物館には考えていません。

神委員 相当施設か。

事務局 はい。

神委員 収蔵こそ大事だと話したが、図面で見ると狭い。
収蔵庫の横に大きなスペースがあるが、そこに収蔵庫を建て増しする予定

はないのか。

山本副会長 収蔵庫が足りないという意見についてどうか。

事務局 建物南西側に板張りの建物がありそれを補強し活用したいと考えています。

吉田委員 ・展示、調査、収集などは専門性が濃いため学識者や学芸員に相談し聞いているのか。

事務局 聞いていません。

吉田委員 設計図を見て話し合うのは分かりやすいが、意見を言って採用されるかどうか、いくら話し合っても専門家にみせないと進まない。

・保存・収集するのは資料館の大前提。建物を残すのも大前提。それに意見を費やすことはない。ただ残し方があるので各自意見を出す、ある程度専門家に聞かないと最終的にそれで良いのか分からない。

・人材育成をどうするのか。

・会議4回目で運営の話が出てこない。考えなければならない。

山本副会長 ・設計に基づいてのそれまでの心構えはもったもである。

・事務局からの説明にあったように、建物保存が第一条件、それに基づいた設計。

西野課長 浦西会長は、奈良県立民俗博物館の学芸員であり専門家で、設計業者の大建設が基本設計の中で作成した試案の図面であります。検討懇話会の中でいろいろな専門分野の方のご意見や市民のご意見を反映させ、実施設計に進めていきたいと思っています。

吉川委員 ・運営のことも大事だが、前回会議で設計図面を出してもらって考えようと決まったのだから、設計図面を見て話し合うのが大切。

・このプランの中に生駒市の姿勢が表われているので意見を出したい。

・収蔵庫の面積が記入していないので分からない。

事務局 60㎡弱です。

吉川委員 ・かなり狭い。この建物に決まる前に資料館を造るのは決まっていた。

- ・この建物を利用するために資料館にしようという話ではなく、資料館を造ろうと新たにはかってここが選ばれたのが経緯で、この建物を活かすのは後から出てきた議論。
- ・資料の保存というところで、もう少し面積を取るべきではないかと思う。

長田部長 保存を主にするなら、作業室や図書室を他所に移し、ここを全部保存に充てる意見を出していただければ、作図してくれると思います。例えば図書閲覧室はここになくても良い。何もかも取り込もうと思えば面積からいえば無理となります。

作業を生駒小学校にするとか意見を出していただくとそれに基づく設計に変更は可能です。

- 吉川委員
- ・図書資料につき、資料館の運営上必要な資料は置くべき。他のものは図書館へ移すようにすればよい。
 - ・作業室は生駒小学校をなくしてここに統合しようとしているのか。
 - ・展示室が2つあるのがなぜか。1つにし、後ろに大きく収納スペースを取るのは無理なのか。

山本副会長 必要な物はここに収納するという事か。

吉川委員 作業室が、どの程度いるのか。

事務局 小学校の旧学童施設の古い教室2教室分に、遺物コンテナ約200箱を置いて現在作業していますが、手狭になっています。図書資料室に置く書籍、古文書を入れているが、建物の耐震性が脆弱で老朽化しています。アルバイトは、全数5名ほどいますが、安全性を考え、この資料館で作業スペースが取れるならと思っています。

吉川委員 土器のコンテナの置き場の問題が起こる。この建物にはそれだけのコンテナが入らない。

事務局 南西側の板張りの建物が、土間であり、加重がかからないので、地面にシートを敷きコンテナを置きます。作業室後方のトイレを残したのも調査員と客とを区別するためです。

吉川委員 2つの展示室はどうか。

- 事務局 設計技師が2つに分けました。
- 吉川委員 保存に使用することもできる。
- 事務局 畳張りのため和風の背の低い展示ケースを置き、古文書等の展示スペースにと考えています。
- 吉川委員
- ・前回、研修室を企画展示室にと提案した。
 - ・板張りにし収蔵庫にすることもできると思う。
- 事務局 逆だということですか。
- 吉川委員
- ・いろいろなイベントに使用するのか、展示等をメインにするのか。
- 吉田委員
- ・保存と展示室はよいと思う。
 - ・展示品や文化財に傷つけることもあるからイベント等は他であればよい。
 - ・生駒市の文化のシンボルになればよい。
 - ・イベントは必ず資料館に関連させて展示関連の体験学習にすればよい。
- 山本副会長 いまの意見についてどうか。人をたくさん入れるのか、資料を並べ静かな資料館にするのか。
- 西川委員 イベント会場にし、空いている時は、料金を払っても場所が取れない場合が多いから自主学习グループに貸し使用料をもらうことにしたらよい。
- 神委員
- ・考古遺物をここに置くのは良くないと思う。
 - ・遺物を置くため手狭になる場合が多くある。
 - ・設備がいる。搬入導線をどうするかと問題がたくさん出てくる。
 - ・畳敷きの展示室は良いイメージがあるが、大勢が使用すると耐久性がない。
 - ・和のイメージの展示を原則やらない方がいい。畳のメンテナンス等費用がかかる。
- 西川委員 上履きに変えるのを嫌がる。
- 神委員
- ・収蔵庫にしたほうがよい。

- ・展示室のレイアウトはこれからか。外光を避けるためケースの置き方を工夫するやブラインドをする話があったが、外光は中途半端なものではない。
- ・兵庫県立歴史博物館は、姫路城が見えように壁をわざわざ穴を開けガラスにし、そこが展示室になりそこから入る外光で置く資料の制約を受けた。
- ・展示室に光を入れるのは良くない。工夫は想像以上にしないと運営が大変である。

吉田委員 ・ 絵画の話で大和文華館は外光が四方から入る。心配したら、窓ガラスにフィルムを貼るなど細工をしている。費用がかかる。
 ・ 文化財には外光は悪い。だから博物館は薄暗いのかと分かった。

山本副会長 保存が一番大事である。

吉川委員 将来、重要文化財を借りて展示することがおこるかもしれない。
 生駒市の歴史を語るうえで重要な文化財を借りることになった場合、博物館相当施設でないとは展示できない。それなりの施設がある。博物館相当施設ということを念頭におき考えていると将来の活動が楽になる。

神委員 そのとおりである。

山本副会長 その考え方で資料館の機能、資料館の運営についての問題で一番大事なことが分かった。これをクリアすれば基礎的なことになる。

神委員 フリースペースと研修室の間に仕切りみたいなものがあるが。

事務局 これは、柱どおりを示しています。

神委員 全部入れて 60 m²か。

事務局 はい。

山本副会長 トイレを改良して作るのを外に作るのは無理か。排水面が気になるし、スペースがもったいない。方位はよいが。

西野課長 ・ いろんな意見が最終ではありません。外光問題、保存スペースの問題、トイ

レの問題は、設計業者と協議し設計図面を再提示します。

- ・トイレについて、この規模の施設では、この広さのスペースが必要だろうと提案を受けています。

外は、駐車スペースや周りの環境等でもう少し検討しないとすぐ出ない結論かと思います。

山本副会長 本体の建物に水を使用するのを避けたいと思った。考えて案を出してもらいたい。

西野課長 今の意見を含め、業者と協議します。

吉川委員 次回に、展示・収蔵・考古学の整理作業等の市の配置計画案も教えてほしい。するとまた意見も出る。

山本副会長 機能についてはこれで、運営については研究を基本とした資料館でどうか。

吉田委員 実際問題、入場者はあまり来ないと思う。

山本副会長 展示物は「絶対保存する」という考えに基づいた研究を兼ねて保存をシンボルとした資料館ということで行く。

西野課長 西川委員から農機具等の資料を分類し、員数分けという形で独自に資料を作っていただきました。研究を主体にとまもめていただくのはやぶさかでないが、実際、農具や資料等の使い方などを子ども達に体験していただくスペースを設けていただければと思います。

吉川委員 子どもの勉強は遊びである。そこからいろんなことを考えることである。

山本副会長 傷まないものは、触った方がいいものもある。

吉田委員 体験はいい。防犯面で触って傷つくとどうなるか。

山本副会長 防犯的なことがあるというが、触りたいものは仕方ない。
運営も一つになるから保存を中心にしていけばよいのでは。
いろんな意見を言う市民も出てくると思うのできちっと対応できるようにしていただければよい。

- 西川委員 収蔵配置の参考になればとリストを作った。気づいたことは、収集は難しいと感じた。目標を持って収集する必要を感じた。
- 神委員 考古もそうだが、民俗収集もかさばる。デジタル化は考えているのか。
- 西野課長 特に今は考えていません。会議の中で反映させるメリットがあれば対応を考えます。
- 神委員 文書、古文書はデジタルデータ化するのか。
- 事務局 古文書調査は、収蔵されている家に行き市の歴史に関連するものについては、承諾を得てその場でデジタルカメラで撮影し、パソコンでデータ保存している状況です。指定文化財、貴重資料等については業者委託しています。普通の村方文書、江戸、幕末文書ぐらいになるとデジタルカメラで対応します。予算の都合もあり、江戸前期までなら業者委託ができます。
- 神委員 リストを見ていると、同じものがたくさんあるがセレクトしてここに置くのか。
- 事務局 そのような形になると思います。
昭和 56 年ぐらいに郷土資料館が山崎町の現在の消防本部の救急救命施設に新設する時に、各家庭の不要な民具を収集していた時期があり、そのまま保存しています。200 m²の 2 階建の建物です。その時からたくさん寄贈があり今日にいたっています。その時に、方向性なり方針をもって集めていたらまとまった資料になっていたかと思います。
- 神委員
- ・ 100 年たてば文化財というから、きっちり守り保管する行為はとても大事。
 - ・ それをどう活かすか。現在の子ども達には、汚いで終わることが多い。
 - ・ 体験は大事。
 - ・ 語り手がいる。市民は期待されているかもしれない。
- 山本副会長 手で刈り、脱穀し、臼引きまでしていた工程を実演、体験できるような場の提供をする。
- 長田部長 以前体験をする予定をしていたが、結局できなかった。外で持ち運び体験し

ようとしたが無理でした。体験することで子ども達も機能が分かる。資料館が出来れば外に出て体験する拠点となればよいと考えています。資料館主催で田んぼを借り、収穫まで体験できる取り組みをおこないたいと思います。

吉川委員 安堵町はそれを実施している。スペースがある。灯心引きも作業室を作り行っている。いろいろ学べる点はある。
研修室がそのままあるのであれば、部屋でできる古文書セミナーを実物に触って行うなど活用の仕方はある。年配の方に関心が高いので集まる機会になる。その中で教えることができる人も出てくるはず。

吉田委員 古文書セミナーは人がたくさん集まる。

吉川委員 大学で古文書の実習室があり、畳敷きに机を置き、実物文書を使って行っている。写真を使うのとかなり違う。

臼井委員 ・図書資料室は、生活民具か古文書か考古学的資料とするか。古文書は古文書としてほしい。変更可能ならその形で。隣の倉庫に、担当資料を置く。
・どこの博物館にも生活民具は置いてある。体験もある。ビデオもある。出前事業もある。それも運営の一つである。ここは拠点でいい。

神委員 出前事業は、小学校や中学校ではどうか。

樋口委員 単発で色々種類はある。本来の授業に影響が出ないように何を取り入れるか決めている。

神委員 一年前から決まっているものか、突然でも決まるものか。

樋口委員 突然ということはない。

小林委員 どの学年で扱うかで変わってくる。1.2年は昔の社会科はない。3年は今と昔の暮らしを比べる、4年は先人の働きになる。総合学習で出前授業をお願いしている。

神委員 3.4年がいいのか。

- 小林委員 ・4年生は水道やゴミのことでたくさん出前授業を受けている。取り入れることはできるが、どの程度のレベルか考えなければならない。
・アクセスの問題もある。
- 樋口委員 中学生になると二分化する。
建物としていい、博物館としていいのかどうか。
- 吉川委員 建物の雰囲気としては、いいと思う。
- 神委員 両方にいいところを見出したい。難しいのも確かである。
- 吉川委員 ・作業室を考古で使用するのは危険な感じがする。
・遺物を洗い乾かすスペースがあるのかと考えると難しい。
・使用したパネルの収納、特別展示で使用した展示台の収納スペース等がたくさん必要となる。
- 神委員 移動書庫など狭いスペースをうまく使うことも可能であるから備品レベルで空間を使うのはどうか。
- 西野課長 天井、床を補強する必要があると思います。
- 神委員 無理があるか。
- 臼井委員 ・生駒市の視察場所の一つに入れてほしい。
・展示だけでは集客は無理だと思う。
- 神委員 フィールドミュージアムのガイダンスセンターみたいな施設、ここに来ればいろいろな魅力が分かる。生駒市を知る。そのような機能は大事である。
- 吉川委員 フィールドミュージアムの中核という位置付けになる。
- 小林委員 ・授業の中で使っている、「わたしたちの生駒市」という副読本がある。
・その中で4年生の「これからの生駒市」のところにもふれられている。
・子ども達には少し意味が難しいかもわからないが、ここで充実していけば記述もいろいろと書き換えができる。

山本副会長 機能、運営の基礎的な意見が出た。事務局からまとめをお願いする。

西野課長

- ・保存を重点として考える方向で郷土資料館を検討する。
- ・体験スペースを設ける。フィールドミュージアムの拠点（中核の施設）として位置付けをし、出前授業、コスト面も考えて子どもの関心が高いものを体験するようなものを検討する。
- ・現在の設計試案について保存スペースをできるだけ確保する設計案に手直しして、次回の懇話会で提示する。
- ・トイレスペースを外にし空きスペースを保存にまわすことも検討してみる。

長田部長 次回は、基本的な市の考え方、作業室はどうするのかも検討に加えます。

西野課長 資料の分散計画の提示を検討する。なお、次回の懇話会は年明けでどうか調整願いたい。設計試案はそれまでに間に合えば会議に提示させていただく。

・その他

次回（第5回会議）は、1月17日（月）午後3時から市役所かコミセンで開催を調整。

委員 了承

以上